

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 神戸キリスト教女子青年会

1 事業の趣旨・目的

近年、日本に定住する外国人は増加の一途をたどり、日本語教育の多様化が進んでいる。兵庫県下でも高い日本語能力を有する外国人によって母語を活用した日本語教室が一部で行われている。だが、地域の日本語教室における指導者が外国人のケースはまだ例外的であり、ほんの一部にすぎない。ネイティブの日本語教師とノンネイティブの日本語教師の協働を目指した意識的な努力が求められており、それは時代の要請でもある。講座開設に当たっては、神戸YWCA学院が培ってきたノウハウ、人的つながりを生かすとともに、兵庫県ボランティアネットワークをはじめ兵庫県教育委員会等とも連携し、地域に奉仕し、成果を地域に還元する方針で取り組みたい。日本人を対象にしたボランティア養成講座と違って、受講生自身が日本語学習経験者であり、受講生のニーズやアイデア等をできるだけ取り入れ、受講生の主体的な学びにつながるように内容や運営にも配慮したい。また、この講座で学んだ外国人の日本語指導者が、講座修了後、大人の学習者だけでなく年少者を対象とした日本語支援を行うことをも視野に入れ、成人教育との違いに留意した指導法や、JSLカリキュラムなど学習活動に必要な日本語についても学べる機会とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
11月4日 18:30～ 20:00	神戸 YWCA 会館	三隅・長嶋 斎藤・福井 松田・野村 掛橋	講座の開設にあたって	・経緯・趣旨説明・許可の報告と内容の詳細についての意見交換を行った。 ・子どもの日本語教育の現状について理解を深めた。
11月20日 18:30～ 19:30	神戸 YWCA 会館	斎藤・福井 松田・野村 掛橋	講座開講準備について	・広報・後援についての最終調整と意見交換を行った。 ・受講生へどのようにインタビューを行うかについて話し合った。
1月19日 18:30～ 20:30	神戸 YWCA 会館	斎藤・福井 松田・野村 掛橋	受講生決定と 講座の方向性について	・インタビューの結果(受講生のレベル)を踏まえて今後の講座の方向性と各講義での役割などについて話し合った。
2月23日 17:30～ 18:30	神戸 YWCA 会館	斎藤・福井 松田・野村 掛橋	中間報告と 研修後の人材の活用について	・前半の様子を報告、後半の講義について、また受講生へのアンケート項目について意見交換を行った。 ・研修後に受講生をどう各機関につなげていくのかについて話し合った。
3月7日 18:30～ 20:00	神戸 YWCA 会館	三隅・斎藤 福井・松田 野村・掛橋	振り返り	・アンケート結果を踏まえ、講座全体の報告と振り返り・総括を行った。 ・今後の取り組みについても話し合った。



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 外国人のための日本語指導者養成講座

(2) 研修の目標

一定以上の日本語能力を有する外国人を対象に、日本語の知識、指導法を身につけることを目標にした日本語指導者養成講座を開設し、母語と日本語を活用してより効果的な日本語支援を行う人材を養成する。

(3) 受講者の総数 14 人

(4) 開催時間数(回数) 21時間 (7 回) ※ほか面接各1人1回

(5) 参加対象者の要件 日本語能力を有する外国人(概ね日本語能力検定試験2級合格程度以上)

(6) 受講者の募集方法

ちらしの配布、HP掲載。

兵庫県・兵庫県教育委員会・神戸市・神戸市教育委員会の後援をいただき、スクールサポーターやボランティアへも呼びかけていただいた。

また関係団体・日本語ボランティア団体へ出向き、趣旨説明を行ってご理解いただき、対象者へ呼びかけていただいた。

(7) 研修会場

神戸YWCA会館

(8) 使用した教材・リソース

(配布)

各講師のハンドアウト、参考プリント (別添)

凡人社 日本語教材リスト(配布)

(参考図書)

みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ・中級Ⅰ

日本語教師のための「活動型」授業の手引き

構成・特徴・分野から学ぶ新聞の読解

成り立ちで知る漢字のおもしろ世界

(動物・植物編、自然物編、人編、手と足編、人体編、道具・家・まち編、武器・ことば・祭祀)

外国語教育Ⅱ

子どもとことばの出会い

完全マスター カタカナ語彙日本語能力試験 1・2級

多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育

日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現

この言葉、外国人にどう説明する？

おしゃべりのたね

日本語集中トレーニング

(9) 講座内容

1回 1月31日(土) 10時～13時

異文化理解について 徳島大学留学センター 三隅友子 受講者数 13名



互いを知るための自己紹介のあと、ビデオやまんがを通じて、それぞれの心の中にある異文化の壁に気づかされた。また異文化理解のためのコミュニケーションの方法を考察した。

なごやかな雰囲気の中、受講生は異文化理解に向き合い、深く考えることができた。

(斎藤明子)

第2回 2月7日(土) 10時～13時

日本語文法と日本語教授法の基礎知識 神戸女学院大学非常勤講師 斎藤明子 受講者数 14名

かつて受けた日本語教育を思い出し、教える側に立って日本語の体系を再認識できるよう、ヒントを与えた。また、日本での生活で日常生活に即必要になることを思い出し、知っておけばよかったことなどを確認する作業もした。

受講者は、自らの学習経験に当てはめて改めて日本語体系を認識するなど、強い関心を示していた。

(斎藤明子)

第3回 2月14日(土) 10時～13時

日本語教授法の基礎知識 神戸女学院大学非常勤講師 斎藤明子 受講者数 14名



必要な日本語を理解させ定着させるには、分析とスキルが必要であることを認識してもらった。また、言葉を教えることのゴールは何に当たるのか考えた上で、習得のプロセスを追ってそのスキルを学んだ。

実際に課題を与えて、発表する形式をとった。

日本語を教えるためには、日本語が話せるだけではだめであること、そしてスキルが必要であることを認識したという感想が多く、こちらの狙いは達成できたと思われる、

(斎藤明子)

第4回 2月21日(土) 9:30～12:30

- 教室活動における教師の言葉のコントロールを確認した。
 - 教える際には必要なスキルであることはよくわかっているため、熱心に取り組み、活発な意見交換が行われた。
- テキスト『おしゃべりのたね』（スリーエーネットワーク）を使って
 - 学習者と話を続けるにはどうすればいいかをテーマにし、学習者の発話に対してどのようなフォロークエスチョンが有効か考えさせた。受講生はフォロークエスチョンの大切さや、クラスの前にフォロークエスチョンを準備しておく必要があること、また言葉のコントロールの難しさを実感したようだった。



- 『日本語集中トレーニング』（アルク）を使って
 - テキストのテーマについてウォームアップをする必要があること、また会話のモデル文を先に見せてしまうのではなく、タスクを先行して行わせ、その時点で学習者ができること、できないことを自らに気がつかせる方法があることなどを紹介した。

この回では初中級レベルの学習者への会話指導をイメージしたが、前回の講義で上げられた「会話指導のゴールは学習者自身が自分のことについて話すこと」というのは初級であっても初中級レベルであっても変わらないという点を強調しておいた。受講生の様子を見てみると、その点は伝わったように思う。

（福井武司）

第5回 2月28日（土）9:30～12:30

始めに読解指導の考え方と技術をテーマに講義した。その後、参加者を二つのグループに分け、中級教材を使って文法項目、語彙・表現をどう扱うかについて話し合いを行った。

文法グループはほぼ狙い通りの話し合いが行われた。一方、語彙・表現のグループは時間が短いこともあってまとまらず、教える際の認識を深めるというようにならなかった。日本語を教えた経験の有無、教えることへの意識の希薄さ、メンバーの偏りなどがその要因だと思われる。

読解の位置付けや精読と速読の違いなどは一定程度受講生に理解されたとと思われるが、演習で扱う材料を日本語のテキストの文章表現ではなく、チラシ、看板、メニュー、時刻表、お知らせなど受講生に身近なリソースを使った内容にするともう少し分かりやすく違った反応・結果になったかもしれない。アンケート結果にも現れているように、受講生の満足度がやや低いことは、日本語学習者のニーズ分析とともに今後検討すべき課題である。



（松田公平）

第6回 2月28日（土）13:30～16:40

全国・兵庫県下における日本語指導が必要な外国人児童生徒数等を紹介した。また「生活言語」と「学習言語」の習得の違いにも触れ、学習言語習得



の難しさを確認した。最後に言われている「どうして子どもたちはわからないのか、間違えるのか」という考えから「どうしてそんな風に間違えるのか」という視点を持ち、外国人児童生徒の指導に当たるべきだという内容を話した。

受講生は現状を把握するとともに、今後の指導における考え方を学んだ。皆興味を持って耳を傾けていた。

(福井武司)

第7回 3月7日（土）10時～13時

子供の日本語教育 神戸生田中学 JSL 教室指導員 大和田邦子 受講者数 12 名



実際に小学校で日本語を教えている経験から、大人とは違うアプローチの方法を提示した。実際に体験するために、グループに分けたワークショップ形式で、さまざまな材料を使ってどのように日本語指導につないでいけるか、考察と作業を行った。その結果をグループごとに発表した。

受講者は全員、興味を持って参加し、体験を楽しんでいた。实际的でよくわかるという感想が多かった。

（斎藤明子）

（10） 講座の評価

● 講座について

※評価（5. たいへん役に立った 4. 役に立った 3. どちらともいえない 2. あまり役に立たなかった 1. 役に立たなかった）

➤ 期間はどうか？

☆ 長 い・・・・・・・・・・ 0 人

☆ ちょうどいい・・・・・・・・ 3 人

● 理由：

➤ 自分の都合もあるから。

☆ 短 い・・・・・・・・・・ 9 人

● 理由：

◇ 漢字の教え方や文法なども十分にできなかった。

◇ もっと詳しく勉強ができればよいと思います。

◇ 講座のおかげで日本語を勉強する立場から教える立場に転ずかけますが、具体的なことを深く分かるのは難しいです。もっと長く勉強できればありがたいです。

◇ もっと勉強したい。

◇ もっと日本語の知識の学びがほしい。

◇ もっと日本語の指導を学びたいです。

「異文化理解」（三隅先生）の講義について （1月31日実施）

評価	5	7 人	4	3 人	3	0 人	2	0 人	1	0 人
----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

➤ 意見・感想など：

☆ 大変おもしろい授業で新たな視点を得た。

☆ ビデオを見て先生のお話を聞いて、異文化について考えることができた。

☆ 先生は工夫をしていろいろな道具を使って、わかりやすく教えていただきました。外人は異国での生活や仕事をうまくいける前提は異文化理解であるというのが私が先生の授業でわかったことです。

☆ とてもよかったと思います。

☆ 異なる文化圏で生活をする異文化理解するためにステレオタイプや偏見と差別を捨てて、共通性と類似性を見つける。相手の視点から受ける。コミュニケーションは不可欠である。話す、聞く、お互いに医師や感情を伝える、魔法の三角形を使うとともに理解を深める。

☆ とても勉強になりました。

- ☆ とても楽しく勉強になりました。異文化については初めてよく考えて、そして理解して、他人のことを尊重する、理解する、相手の立場で考える、うまくコミュニケーションをとるように頑張ります。
- ☆ 「自分の視点から相手の視点へ」や「すべての人はその時その人にとって最善を尽くしている」などの観念はとても印象に残っている。
- ☆ 異文化理解をととても興味深くを持っていますので、もし機会があればまた勉強したいです。

➤ 「日本語文法と日本語教授法の基礎知識」（斎藤先生）の講義について（2月7・14日実施）

評価	5	10人	4	3人	3	0人	2	0人	1	0人
----	---	-----	---	----	---	----	---	----	---	----

➤ 意見・感想など：

- ☆ 初めて先生たちの大変さがわかりました。
- ☆ 具体的な教え方を勉強できてよかったですが、もっと時間をかけてやって欲しかった。
- ☆ 日本語の教授法を勉強することができて本当によかったのです。もっと教授法について勉強してみたいと思うようになりました。
- ☆ 中級日本語を勉強し始めたときに、上野段階に飛び上がるつもりで辞書の中に出てくる単語の意味を全部メモしました。いつかメモを書いてある言葉を覚えておくのになかなかできなかったです。先生の授業で言葉の意味を全部教える先生は良くない先生である、という斎藤先生の話は深く印象づけられました。これから私の勉強法もやり直します。
- ☆ とてもよかったと思います。
- ☆ 日本語は聞く、話す、読む、書く、4つの技能がある。段階によって学習者の教材を選択する。はじめは、簡単な文を作る。品詞の分類や文系の昨日と関係など、「易→難」「短→長」で文を分解した後で反復練習をする。最終的に目標に達する。
- ☆ とてもよかったと思います。先生にまともえて復習してもらいました。（日本語文法）日本語教授法も楽しく優しく受けました。今後の子どもの日本語教育や中国語教育に参考になります。
- ☆ 講義がとてもおもしろくてわかりやすい。
- ☆ 自分自身がまだ勉強不足なので、もっと勉強したいです。
- ☆ 初級の人を教えることだったが、時々日本人らしい話し方を要求した。それは無理。

➤ 「日本語文法と日本語教授法の基礎知識（会話指導）」（福井先生）の講義について（2月21日実施）

評価	5	9人	4	2人	3	1人	2	0人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

● 意見・感想など：

- ☆ 日本語を教える立場だったら、いろいろな工夫をしないといけないことに気づいた。
- ☆ 笑いが絶えない授業で、どのように授業を面白くするかを学んだだけでなく、会話を教える際の注意点も参考になった。
- ☆ 非常に楽しい授業で、授業の進め方について少しわかるようになった。
- ☆ とてもよかったと思います。
- ☆ 会話の練習は実際のコミュニケーションを体験して目指しています。日常生活上の身近な話題について話す。自分の持っている日本語力でいろいろな方法を使って、絵と写真や実物など話す機会を作ることが大切。
- ☆ 優しいユーモアのある先生だと思います。教えるときの言葉のコントロールことがわかったが、実際になかなかできません。これから意識的にコントロールするようにしましょう。

- ☆ 大変勉強になりました。
- ☆ コントロールすることが難しかった。

➤ 「日本語文法と日本語教授法の基礎知識（読解指導）」（松田先生）の講義について（2月28日実施）

評価	5	7人	4	2人	3	2人	2	1人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

● 意見・感想など：

- ☆ 今まで学んだことを練習できたことは良かったです、他の授業と比較して説明不十分だった気がする。
- ☆ 前の授業の練習ができてよかった。
- ☆ とてもよかったと思います。
- ☆ 読解は書き言葉の特徴。書き言葉と話し言葉に大きな差がある。読解には速読と精読がある。学習者は精読をすることが多い。速読はテストのときに使う。（時間制限がある。）読解は文章のテーマと内容、語彙表現、文法、キーワードなどを早く見つける。自分の持っている知識と経験を引き出すと日本語の能力が発揮できる。
- ☆ 私にとって少し難しい授業でしたこれから頑張って日本語を勉強したいと思います。できるだけ毎日、新聞を読んで内容を理解して読解力を向上したいと思います。
- ☆ 授業の形式に工夫されていることに感心した。もっといろいろ聞きたかった。
- ☆ 大変勉強になりました。
- ☆ グループで話し合う時間をもっと取りたかった。

「子どもの日本語教育」（水野先生）の講義について

評価	5	8人	4	3人	3	1人	2	0人	1	0人
----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

- ☆ 意見・感想など：
- ☆ 理論と実践の両面から参考になる授業だった。
- ☆ 「臨界期仮説」という言葉は初めて知りました。娘の教育にとってとても役に立ちます。それからリライト教材で日本語を教えるのも印象に残りました。
- ☆ 子どもと大人の教育や教え方に違いがあるのを知ることができた。有益な時間でした。
- ☆ とてもよかったと思います。
- ☆ 日本で生活する外国人が増えている。同時に日本日本語指導が必要な子どもの人数も増えている。母語と日本語の語学教育ができる時期は5～13歳までというのが臨界期である。子どもは身近で興味のある話題を使って、身振り、手振り、絵をかく、実物を見せるなどをして反復練習をすれば日本語は日に日に上達するでしょう。
- ☆ いろんな外国人の子どもの教育の情報を知ってちょっとショックでした。子どもの日本語教育は、大人の短期学習より、長期学習である。子どもは生活言語を覚えるけれど学習言語はなかなか時間がかかりそうです。
- ☆ 外国人児童に対する日本語の現状について時間をたくさん取っている。現状より実践の方をもっと勉強したかった。
- ☆ 「子どもの日本語教育」の講義は初めて受けました。わからないことがたくさんあって、今回の講義を受けて大変勉強になりました。

- 「子どもの日本語教育」(大和田先生)の講義について(3月7日実施)

評価

5	6人	4	5人	3	1人	2	0人	1	0人
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

- 意見・感想など:

- ☆ 簡単。易しい。教え方により子どもが勉強できる。
- ☆ すぐ実践に役立ついい抗議だった。
- ☆ いろんな活動を通じて教材や教え方を勉強することができました。
- ☆ 身近な道具を使って子どもに日本語を教えるのがわかりました。
- ☆ とてもよかったと思います。
- ☆ 子どもは言葉の覚えが早い。身近で楽しい気持ちになるように聞き、話し、反復練習する。できる限り実物を見たり、実際にしてみたい。簡略化してもよい。話し言葉と書き言葉があることに要注意。教科書の理解ができないことがある。
- ☆ 具体的にやり方(子どもに日本語を教える方法)を教えてもらってとても役に立つと思います。とても楽しかったです。
- ☆ 子どもに日本語を教えるにはたいけんさせるのがとても大事だということがよくわかった。自分ももっと体験したい。
- ☆ 機会があれば、実際に体験したいです。
- ☆ 今までの経験で知っていたことが多かった。

- 全体の内容について

評価

5	6人	4	4人	3	1人	2	0人	1	0人
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

- 理由、その他質問、感想、アドバイスがありましたら、ぜひお書きください。

- ☆ 正しくない考えかもしれませんが、「異文化理解」も大切ですが、その時間をちょっと短くして、日本語教育に時間をかければいいかなと私は思っております。
- ☆ とてもよかったと思います。アドバイスがありません。
- ☆ 今回講座に参加させていただき、本当によかったと思っています。また似たような講座があればぜひよんでください。
- ☆ 自分は日本語がなかなかうまくなくて、教えることには自信がありません。もっと日本語のレベルアップをしたいと思います。
- ☆ 日本語を教える人の日本語力、レベルをできれば合わせて欲しかった。自分の日本語能力を伸ばすことで大変。少し日本語に自信を持っている人を学習者にしてほしかった。

● 講座修了後について

- 日本語の指導するはありますか?

- ☆ ・すでに決まっている 4人(場所・機関: 小学校、高校)
- ・まだ決まっていないが、やりたい 3人(場所・機関: 子ども多文化共生サポーター、学校)
- ☆ ・やりたいが自信がない 3人
- ・帰国する予定 1人

- 日本語に関するボランティアについて参加を希望されますか?

- ☆ ・条件が合えば参加したい 7人
- ・今のところわからない 5人
- ・希望しない 0人

➤ 引き続き勉強したいことは何ですか？（いくつでも○をつけてください）

○ 自分自身の日本語

☆ ・文法 9人 ・発音 6人 ・聴解（聞き取り） 1人 ・文字（漢字を含む）2人

☆ ・日本語能力試験対策 3人 ・文章表現・作文 3人

○ 日本語の教え方

☆ ・文法 7人 ・作文 4人 ・聴解 1人 ・文字 3人 ・中級の教え方 2人

☆ ・子どもの教え方 7人 ・実習 2人

②実施主体からの研修内容結果評価

講座はアンケートにも現れているように、全体的には受講生に好評であった。主催者としては、受講生の感想・意見とは別に事業の目的に照らして、講座を評価し、総括しなければならない。ここでは、全体評価、受講生の募集、講座の内容、課題等について述べる。

全体評価：今回の講座の目的は「一定の日本語能力を有する外国人を対象にした日本語指導者養成」である。この面から考えると講座の開設は時宜に適っており意義があった。準備期間が短かったにもかかわらず、受講生はすぐに集まり、運営面でも順調に進んだ。

講座で取り上げた教える際に必要な言葉のコントロール、授業の進め方や実践的な教室活動のあり方などはすぐにも役立つスキルであり、受講生には有意義であったと思われる。

しかし、受講生の多くが日本語を「教える」スキルを学んで、それを身に付けることができたかといえば残念ながらできていないと言わざるを得ない。その要因はどこにあるのだろうか。受講生のニーズ、意識、日本語レベルがばらばらで一定ではないことが問題点として挙げられる。特に多文化共生サポーターなどの日本語指導の経験の有無が「教える」ことの意識に深く関わっているように思われる。

受講生の一部には「日本語を教えること」への意識が希薄で、あたかも自らの日本語能力のレベルアップのために参加しているかのようなケースが見られた。これは主催者の意図を超えた問題であり、講座の目的達成に影響を与える要素であった。募集要項には日本語能力試験2級レベル以上と一応の基準が示されており、特に制約は設けていなかったが、講座の目的をよく理解しないまま参加した受講生もいたということである。講座の目的を理解し、それにふさわしい日本語能力を有する受講生は全体の半数程度であった。今後、受講生を募集する際、「日本語を教える」こと、そのためのスキルの習得をゴールとして設定する場合、「日本語を教えた経験があるか、教える予定がある人」に受講生を限定するか、講座の目的をよく理解したうえで受講を認めるというやり方に募集方法を変えていく必要があるかもしれない。日本語のレベルが低く、概念語の理解が難しい人は教える側に立つのは難しい。応募の段階でしっかりとレベルチェック、受講目的のチェックを行うためには、インタビュー等が必要である。

ただ、ここに述べたことは講座をやってみてはじめてわかったことであり、やむを得ない面がある。他方では、講座参加者の中には優秀な方も少なくなく、外国人の日本語指導者として日本語能力、教えることに対する意識や意欲も高く、母語と日本語を使って学習者に教える人材が育ちつつあること、今後に大いに展望が持てることを具体的に実感させるものであった。今後よりよい講座にしていけるためには今回の経験をしっかりと生かし、不十分な部分を克服していかなければならない。

講座の内容は、異文化理解（1回）、日本語文法と日本語教授法の基礎知識（4回）、子どもの日本語（2回）という構成であった。子どもの日本語は、この講座で学んだ外国人の日本語指導者が、修了後、大人の学習者だけでなく年少者を対象とした日本語支援を行うことも視野に入れたものであり、成人学習者との違いに留意した指導法、JSL教室の実践を反映させた内容である。おおむね妥当だったと考えるが、今後教える対象を子どもに特化するとしたら、日本語教授法の会話・読解の講義よりも大和田先生の講義のような子どもに教えるためのノ

ウハウの講義を増やすのも一つ方法だろう。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・今回の経験を踏まえて、引き続き「外国人のための日本語指導者養成講座」に取り組みたい。
- ・今年度の受講参加者にベトナム語の母語話者はいなかった。神戸市、兵庫県は全国的にみてもベトナム人市民の比率が高い地域である。ベトナム語母語話者が受講できるよう働きかける。
- ・15歳から18歳の外国人生徒を対象を絞った「日本語初期指導」「教科のための日本語」指導の開設、研究に取り組む。
- ・神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会と連携し、教員、サポーターの研修に関わっていきたい。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

本事業の後援をいただいた兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会とは、当学院が取り組む特に外国人児童・生徒の日本語教育を通して密接な関係にあるが、この講座を通してさらに相互の理解が進んだといえよう。兵庫県が独自に行っているスクールサポーター制度では、日本語のサポートを必要とする外国にルーツを持つ子どもたちに母語話者がサポーターとして派遣されている。現在は通訳や相談役が主な役割だが、日本語指導の担い手としての期待も寄せられており、本事業のような研修は現場でも必要とされていることがよくわかる。今回も受講生の中に現在スクールサポーターしている人からの応募もあった。また講座修了時にはスクールサポーター制度の紹介をした。

(イ) 研修後の人材活用

修了生には、次のような活動の場を紹介、または今後も継続的に案内していくつもりである。

1. 神戸市・兵庫県のスクールサポーター
2. 地域の小学校、支援グループなどでの日本語指導ボランティア
3. 神戸YWCA学院の日本語コースにおける日本語が十分でない子どもたちへの日本語サポートおよび学科指導
4. 神戸YWCA所属の外国人女性サポートグループ IWA (International Women's assistance) における支援活動

(12) 今後の課題

今回は募集期間が短かったにも関わらず、多くの問い合わせをいただき、定員オーバーのため、受講いただけない人もあった。また受講生のアンケートからもわかるように、もっと学びたいという熱いアピールもあった。これらことから、本事業の社会的なニーズの高さが感じられ、来年度もぜひ継続して実施したい。

次回講座を開催する際の課題は、講座の目的・方針を、あくまでも日本語指導者養成にするのか、あるいは応募者のレベルや目的に沿った内容にするべきなのかを検討することである。異文化理解など、日本語能力に関係なく学べるものも多いが、応募の段階で受講者の目的およびレベルを確実につかんでおく必要があるようだ。また、やはり現場を持って教えている人を中心に受講者を募るのも一つの方法だろう。

さらに、今回培ったネットワークを今後も維持・発展させ、在住外国人が地域で安心して暮らせる社会づくりに寄与していきたい。